

富山大学

学園ニュース



特集 ■ 「見直そう、富山大学」

目 次

特集「見直そう、富山大学」

「自己点検」から浮かび上がる富山大学像	学長 小黒千足	1
理想とする大学像	人文学部 松崎一平	4
大先輩の語る富山大学	教育学部 中川 孝・経済学部 山本悦子	5
1年生、大いに語る（座談会）		7

わたしの研究室

岸田研究室 (人文学部)	若生正和 (人文3)	11
音楽科紹介 (教育学部)	教育3年一同	12
鈴木研究室 (経済学部)	谷川賢司 (経済4)	13
水谷研究室 (理学部)	山本 恵 (理4)	14
龍山研究室 (工学部)	西脇 博 (工修1)	15

留学生コーナー

ドイツでの留学生活を通して	上原康代 (教育)	16
---------------------	-----------	----

トピックス

本学初のドクターコース -工学部長に聞く-		17
-----------------------------	--	----

学生部だより

就職活動準備に備えて		19
前期授業料免除について		21
アルバイトの紹介		21
交通安全の徹底について		23

保健管理センターだより		24
-------------------	--	----

キャンパスウォッチング		26
-------------------	--	----

見直そう、富山大学

「自己点検」から浮かび上がる富山大学像

学長 小黒千足

最近大学に押し寄せる波の中に、自己点検・評価があります。それは平成3年に行われた大学設置基準の改正で、「大学は常に自己点検・評価を行わなければならない」と決められたからです。

このように規定されなくても、本来大学は常に過去を顧み、現状を解析して、より良い方向を目指すのは当然です。しかし、客観的に見た場合、それが不十分だったので規則として定められたのではないのでしょうか。勿論、本学でもそのための委員会をつくって、点検し、評価し、そして大学の改善に努めております。

ところで、自己点検の中には、他による点検も含まれます。一見自己と矛盾するように思われますが、この真意は「他からの評価を受けて、自らが付かないことや、自身に甘い処を排除し、自ら点検・評価する」ことですから、おかしくありません。

ところで、学生の知識や技術の修得度は、教官が評価し、成績になって表れます。学生はそれを参考にして、自らの学習の在り方や時間の配分などを考えます。では、教官の授業方法や実験指導などに対する評価は、誰がどのように行うのでしょうか。

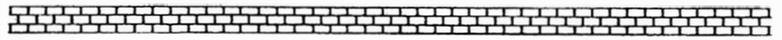
最もわかり易いのは、学生による評価です。これについては論議があって、学生による評価を実

施している大学はあまり多くありません。しかし、個人的な見解として私は、学生による評価を取り入れるのが良いと思っています。ある私立大学の例ですが、各教室にリモコン式テレビ撮影装置があって、それを通じて理事などが教官の評価をしています。それに比べると、学生の判断の方がはるかにまざっていることは言うまでもありません。

もっとも、学生による評価を実行する場合には学生の方にも覚悟がいきます。まず、自らの受講態度を評価しなければならないからです。例えば、居眠りをしていて、講義が理解出来なかったと云っても話しになりません。

しかし、これについて私は楽観しております。先日行われた教養教育に対する学生アンケートを見せてもらいましたところ、講義に対する学生の評価平均は5段階評価で3と4の間にありました。これは本学の教官の講義が学生が考える平均より上であることを示すとともに、学生が単なる好みなどで講義の内容や教官の評価をしていないことを表しています。また、それぞれの評価の対象になったユニット内では、評点にあまりばらつきは見られませんでした。本学の学生が、今後ともこのような意味で成熟してくれることを望みます。

話は遡りますが、昭和24年に富山大学が発足したときは、4学部で（そのうち薬学部は富山医科



薬科大学に移ったので、実質は3学部)、1学年の学生定員は670名でした。それが現在では5学部、5研究科、各種センターをもち、学部入学定員は1500名を越えております。これらは単に学部等の数と入学定員上の成長ですが、それ以外に様々な点で本学は大きく充実してきました。また、全国の国立大学に先駆けて行った教育改革は富山大学が誇り得ることの一つです。

過去の栄光に溺れた国家は必ず滅亡したことは歴史的に明らかです。しかし、富山大学は亡びる訳にはまいりません。また、常に昔を振り返るのは老人にありがちですが、大学が老いぼれては困ります。先にふれたように本学は過去に大きく成長してきましたが、これで満足するのではなく、将来に向かって更に発展しなければなりません。大学にとって、滞留は退化であり亡びへの道です。よく知られているように、国立大学には厳しい前途が待ち受けています。例えば、若年人口の減少、私学の奮起、国の困難な財政状況など、数え上げればきりがありません。

では、富山大学はいかにして、また、どの方向に発展すれば良いのでしょうか。勿論、それは全学の総意で決まることです。しかし、ある観点として以下のことが上げられるでしょう。

その第一のヒントは、価値の多様性にあります。一言で云うと、大学の個性化です。よく云われるように、「団塊の世代として、画一的な教育を受

け、偏差値で振り分けられ、金太郎飴（これは死語に近いのかもしれませんが）のように個性がなく、ところてん（ところてんのつき方も？）のように押し出されて卒業してゆく」とことと決別することです。

具体的に云うならば、まず個々の学生が自らのカラーを強く打ち出し、個性をもつことです。云うまでもなく、人は皆それぞれ個性をもちます。しかし、ここで云う個性とは、大学生としての個性、すなわち学問、知識あるいは教養に対する個性や探求心のことです。自分が選んだ専攻のある課目やその周辺知識の吸収に没頭するのもその一つですし、クラブ活動に青春を賭けるのも良いでしょう。また、ボランティアとして力を尽くすこともあり得ます。それらのために留年をしても悔いがなければ、それも大学生としての生き方かもしれません（この点には顔をしかめる教官も多いと思いますが、私はそれでも良いと信じています）。多くの学生が本当の意味で個性的になった時には、大学そのものが変わるに違いありません。

学生としての方向は他にもありますが、教官は大学の個性化のためには何をすれば良いのでしょうか。それは、講義や指導に当って、教官独自のものを、誇れるものを学生に吐露することに尽きると思います。以前、関東から転任してきたある教官が「富山に流れてきた」と云ったのを聞いて私は



強い怒りを感じました。

なぜ自分の教育と研究に自信をもち、良い学生を社会に送り出すことに誇りをもたないのでしょうか。富山でしか出来ない、あるいは富山大学だからこそ出来る教育、研究も少なくないはずです。そこに気がつけば、「流れてきた」などという発想はあり得ないはずです。

ここで、多少視点を変えて大学の将来を考えてみます。最近の社会の流れを読み取るとき、従来の大学には無かった教育が求められていることがわかります。それはいわゆる生涯学習（リカレントおよびリフレッシュ教育）への対応で、従来のような入学試験を受けて入る学生だけではなく、社会人を対象にした教育です。これには、企業や官公庁などに在籍のまま入学する場合、あるいは特定の科目だけを受講して単位を取得する場合（科目等履修生）などがありますが、いずれも以前にはみられなかったカテゴリーの学生です。

生涯学習への流れは必然で、しかも将来多くの学生を受け入れることになるでしょう。そのとき、従来型の学生に対する教育の質を落さず、適切に対応するには、それ相当の研究も準備も必要です。我々は万全の対策を考えますが、実は従来型の学生にも幾つかプラスの面があります。

わかりやすい点としては、異なる年齢や職業をもつ人達と身近に接する機会が増えることです。さらに、諸君が大学を卒業して社会人になった後

でも、必要があれば、いつでも大学側に受け入れの態勢がとられていることです。

本学ではいま、生涯学習教育研究センターの設立を目指しています。これが認められれば、生涯学習に関する中心的役割を果たすものと期待されております。諸君が卒業後も、新しい技術や資格修得のために、あるいは教養を高めるためにも、また大学を訪れることを希望します。

前の話題と多少似ていますが、大学と社会の関連性の問題は重要です。ある国が尊敬を受けるには、経済力だけでも軍事力だけでも不足です。何よりもその国の文化の高さが必要です。またこれは、県についても市町村の場合でも同様で、我々は地域の文化向上に積極的に携わる必要があります。

少なくとも、富山県唯一の国立の総合大学として、国の高等教育を支えると同時に、地域にも貢献する必要があります。大学の誰が、どのようにして係わるのかはさておき、学生も大学の一員であり、学生なくして大学はありえません。そのことを考えたとき、いろいろな意味で諸君に期待し、また負う処が多いことを忘れないでください。

最近本学のテレホンカードを作りました。メインストリートで学生が歩いている写真を重ねて「夢大学」と標されています。富山大学が大学としての理想像を常に求め、また、諸君の夢を叶えてくれる大学でありたいものです。



理想とする大学像

人文学部

助教授 松崎 一平

—昨年4月からの4年一貫カリキュラムの実施と教養部の解体・教養部教官の学部分属とを受けて人文学部は従来の2学科制を改めて、人文、国際文化、言語文化の3学科、23コース・ゼミからなる新体制に移行した。1、2年生は既に新カリキュラムで学んでおり、改革は順調に進んでいるようにも思われる。が、それはいわば器が新しくなったにすぎない。器に何を、どう入れたらいいか、入れることが可能かは、まだ漠としている。以下はそれを考える際に拠って立ちたい理念の素描である。

人文学部で学ばれるべき学問・知識の特徴の一つは、それが定量的なものではないことにある（むろん、基礎知識を定量的に養成することが一方で不可欠だが）。これこれの教科書をマスターしたから基礎は身に付いた。次にこれこれの教科書をマスターして…、というようなことが当てはまりにくい。学びのかたちはどうあるべきか。

教官は教育者であると同時に研究者としてそれぞれの課題を探究している。講義等を通じて探究過程ないし成果を披露し、受講生に研究者としての自らの探究の体験を何らかの仕方でも共有してもらおう。教官と学生がいわば共同研究者として切磋琢磨し合う。（そこで授受されるべきものはむしろ探究方法であり、情熱であり、生き方だろう。）これこそが人文学部にとっての学びの模範というべきものだ。教官と学生が研究体験をどうすれば最も良いかたちで共有することができるかが、器

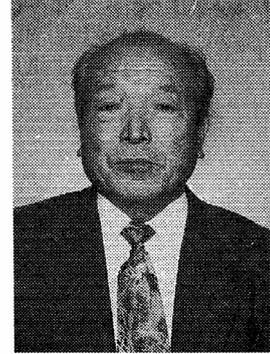
に盛るべきものを考える時に（また器に手を加える際にも）最も真剣に考慮されなければならない。

研究体験の共有が良く行われるためには、まず学生諸君が社会や文化、人間に関して明確な問題意識（研究課題）を、しかもヴィヴィッドな仕方を持つことが肝要である。それは学生諸君が一人の人格をもって誠実に生活することに他ならない。教官もまた同様の生活をおくっているはずであり、かくて学生と教官との、より良き「ひと」となることに行き着く人格的交流が生まれざるをえない。よって人文学部における学びの成果は大教室からは生まれにくいし、短期間に上がるものでもない。むしろ生涯を要しとする。学部が、大学が、社会が、そのような学びの場を育み守るものとして見識をもって機能することが何よりも大切なことだ。

本学には5学部がある。人文学部については上に述べたが、他学部も学びの場としてそれぞれ特有の性格を有する。学生と教官とを問わず、課題の在り様によっては他学部の授業や研究成果を利用することが有益であることも多い。5学部が大学として一つである以上、教養教育以外でも相互に交流することを積極的に考えるべきだ。例えば、学部を跨るかたちで副専攻を認める。専門基礎科目を他学部の学生に積極的に開放する。このようなことの実現にも取り組むべきではないか。それを可能にする条件の一つは研究内容や授業内容について情報交換を密にすることだ。「となりは何をする人ぞ」ではいけないと思う。

貧窮の時代の中で

－新制富山大学発足のころ－



教育学部
教授 中川 孝

わが国は第二次世界大戦の敗戦後、思想、文化、政治、経済、教育等全てがGHQ（連合軍総司令部）の占領管理体制下におかれた。教育制度は、CIE（連合軍総司令部民間情報教育局）とアメリカ教育使節団によって、明治初期の学制頒布以来の大改革が実施された。小学校から年次的に改革が進められ、昭和24年（1949年）の新制大学の発足で現行学校教育制度が確立された。

私は第一期生として、富山大学教育学部に入学した。当時の国際情勢は、東西の冷戦が深刻化し、翌年には朝鮮戦争が勃発した。国内では、戦後からの食糧難が続き、経済は低迷状態で生活水準は低く、思想統制のレッドパージで学内に犠牲者が出たのもこの頃であった。軍国主義の戦時体制教育を経験してきた者にとって、思想、価値観の転換と新しい民主社会体制への適応は大きな試練であり、慌ただしい束の間の四年間であった。

新制大学は「駅弁大学」と囃かれ、大学教育の低俗化が噂された。しかしわれわれは、学生の自覚と奮起を促すものと解し、勉学と自己啓発に努める決意を確認し合っていた。

施設設備は、全学部ともに狭隘で劣悪そのもので、教育学部と薬学部は戦災による復興途上であり、文理学部と工学部は老朽化が進行していた。

一年半の一般教育は、旧制富山高校校舎の文理学部で実施された。外国語科目（英独佛）と一部

の講義を除きほとんどの授業は、講堂、剣道場、柔道場が教室に充てられた。冬の暖房は、木炭火鉢が一つで、学生はコート着用のまま受講していた。出席率は、外国語（一日の出席票はこの時間に回収）の講義以外は決して高くはなかった。課外活動では、体育系の活動意欲は強く、入学後間もなくクラブの結成をみた。しかし屋外体育施設は荒廃し、附属施設設備もなく、学生は整地作業に従事し、設備充実のために映画館の借り切り上映やダンスパーティー開催など、学生主体の整備事業資金によって支えられていた。現在の北国大会も学生手造りの体育大会であった。

二年半の専門教育は、文理（経済学科併設）、教、薬、工の四学部が各地に分散した蛸足形態で実施された。この期間は、厳しい教育課程と学習内容が課せられて多忙な毎日であった。

教育実習は、教育への情熱と責任を体験的に検証できた苦しくも楽しいものであった。卒業論文は、指導教官の要求水準が高く、何度も修正改善を求められ、厳格な評価に不安を抱いたものであった。

最後に約半世紀を追憶する時、今昔の感が極めて強い。卒業後多くの方々のお指導、御支援を賜りながら、何等貢献することなく来春は退官である。誠に心苦しい。富山大学の今後益々の充実発展を衷心より祈念するものである。



ありし日々。そして今。

経済学部

学務主任 山本悦子

当時を振り返ってみますと既に30年もの月日が経とうとしていることにいまさらながら驚かされ、月日の経つ早さが実感として感じられます。

当世の偏差値さながら当時の富山大学も「駅弁大学」と一括して総称されていた新制大学でした。何故に「駅弁大学」といわれたのかははっきりしません。駅弁を売っている所にはどこにでもあるからとか、駅弁というのはどこの駅で売っているものでも、なかみに大きな差はなく特徴がないからとか、というようなことのように思えます。しかし、その新制大学がその後の日本経済の成長に欠くことのできない幾多の人材を輩出し、国の発展に大きく寄与したことも事実でした。

私が入学したのは、丁度その頃から女子の進学率が急激に伸びだし女大生亡国論が盛んに叫ばれ、女子学生の増加が歓迎されていない最中でした。まるで女子大学へ来たようだ、しかし女の人のほうが成績がよいのだからしかたがないなあ。…講義に見えられた先生の第一声でした。

専門課程に移行し各専攻に分かれると、学生の数よりも先生の数が多いところも少なくありませんでした。今から考えると極めて恵まれていたと思わざるを得ません。

しばらくして気が付いた事ですが、当時は、どこの学部でも学生の中から見ても一際貫録のあるボスと呼ばれる実力者の先生が必ずいらっしゃることでした。また、学生も1年しか変わらない上級生が先輩の名にふさわしく後輩の私たちから見ても立派だった事でした。同級生の間でもリーダーになる人がいていつのまにかその人々を中心に動

いてなにかまとまりがあったように思います。

講座の旅行やコンパでは当世流としてはカラオケというところでしょうが、先生は、筆をとり、古事記の一節を吟じながら、墨跡も鮮やかにサラサラと色紙に書き記して学生一人一人にくださったり、またある機会には学生と話をしながらふと浮かんだ和歌を短冊に書き記したり、我々学生が不勉強なだけにその優雅さを楽しむだけの知的センスには欠けていたように思えますが、今改めて当時を忍びますと、なつかしさだけでなく大切なものを忘れて来てしまっていたように思えます。

また、先輩たちも心に残るような人達でした。いかにも美しくエレガントだった女性の先輩たちは学生のたまり場での我らのあこがれの的でありいつもわさの主たちでした。男子の先輩達は諸教官の論文を読んでおり、この論文にたいする学会での評価がこうだとかあだとか、それに自分の感想を加えて我々後輩に話してくれました。もちろん学生の間だけでしたが、学生による教官の評価が行われていたのです。わずか1年で我々が先輩のようになれるのかしらと自信を失うような頼もしい人達でした。振り返ってみてやはり先輩達の様にはなれなかったと反省しています。

その後、日本経済の発展に伴って富山大学も大きくなっていきましたが、失われていったものも少なくないのではないかと思います。日本語の美しさ、日本の文化にたいする価値観等々、それに富山大学の雰囲気も…。

1年生、大いに語る

早くも新しい年度を迎えようとしている。入学直後は初々しい表情を見せていた彼らも、どこか大人びた風貌に変容している。各学部の1年生たちが、それぞれの表現で、富山大学での学生生活を語ってくれた。

アルバイト…学業との両立は？

司会：まず最初に、学生特有の経済活動（笑）…アルバイトのことを語ってもらいましょう。

学業との両立についても聞かせて下さい。

高木芳樹：卓球部と劇団と体育会の事務局やってるんで、バイトやる暇なんかないです。

金井肇：ぼくは、一応、やっています。生活費の足しにしています。あまり時間を割いてないですから、今んところは大丈夫です。

小原邦子：私は、短期のしかしてないんで、わりとうまくいっています。…一度、アルバイトの翌日に突然テストが入って、ひどい目に遭いましたけど。

司会：どんな仕事ですか？

小原：模擬テストの採点です。…生徒の珍解答に思わず笑ったりして、とっても楽しいんですよ。

中谷茂人：採点する側だと、テストも、けっこうおもしろいんだよね。（笑）

司会：アルバイトで得たお金はどんなことに使ってるんでしょう？

小原：ほとんど、部活の資金ですね。

宮川誠一：ぼくは、生活のためです。親から独立したいから。経済的にも。

町村正吾：偉いんだ。ぼくは、主に旅行のためです。勉強との関係は、まあ、うまくいっている方だと思っています。…先輩の社員の人生活とか、おもしろいなあと思います。

永田雄一：もっぱら遊びです。…だからかどうか分かんないけど、両立は、してないです。

坂下則郎：バイクを買って、ツーリングに出かけたい。正直言って、勉強と両立しているとは言えないけど…、従業員価格で商品が買えるとかもあるんで、やめられません。

中淵容子：何に使うかは、別に決めていませんけど、お金がなくて、したいことができないっていうのは、くやしいから…。

梅沢さとみ：あのー、車を買おうと…。（嘆声）いえ、大した車じゃないんですウ。

紫藤節美：服や旅行でなくなります。無理してまでやる気はありません。お金のためだけじゃなく、おもしろいからってこともあるんです。中学生かって聞かれたり（笑）、お客さんにプレゼントをもらったり（「オー」の声）…別に、つきあうとかはしてませんけど。（笑）

洲崎ゆう子：ほとんど本代で消えちゃいます。少しだけど貯金もしています。（嘆声）…責任ってことの意味も、勉強になりました。

磯野栄治：今の時点では貯金しています。目的はスキー用品と車。アルバイト重視になってて…。

石沢幸郎：一時間目の授業があると、夜のバイトは、ホント、たいへん。あ、逆か。（笑）…でも、両立って結局は本人の意識次第だと思う。アルバイトは楽しみにもなってます。

「授業」にはいろいろ…

司会：今度は学業のを中心に…。高校までの勉強と比べてどんな違いを感じましたか。

小原：まず、時間割のことなんですけど、履修ガイド？ あれだけでは分からないことが多くてすごく不安だったんですけど、サークルの先輩にいろいろ教えられて、本当に助かりました。

中淵：時間割を自分で組み立てるといっても、主体性っていうか、あまり活かせなかった感じで、結果的には、高校と大差ないなって思いました。

紫藤：そうね。選択肢が案外少ないんです。もっと融通が利くものと思ってたけど…。外国語なんか、ドイツ語以外は学部の授業と重なって取れなかったんですよ。

洲崎：必修がほとんどなのよね。必要な授業から取っていくと、おもしろそうな授業が取れない場合があって…。でも、高校までの受け身の学校生活とは違うってことも感じましたね。

金井：最初はとまどったけど、慣れるとこの方がいいと思うようになりました。曜日によっては、アルバイトもあるし。(笑)

磯野：めんどくさかった。取れるだけ取って、後で捨てればいいや、という形になりがちなんです、これは注意が必要だと思った。ただ、自分の勉強したいものとは違うものが多くて…。

梅沢：もっと自由に選択できればいいなと思ったんですけど…。ただ、その自由が危険じゃないかって気もしました。

石沢：でもさ、それって、やっぱり、本人の意識次第なんじゃない？…あ、これって、自己批判だと思ってください。(笑)

司会：大学の授業を受けてみて、どうでした？

石沢：大講義室は、いかにも大学生という気がして、(笑)…けっこう、よかったです。

紫藤：大講義室の授業は、最初、とっても開放的な感じで、それが新鮮で嬉しかったんですけど、…マイクを使わない先生の時は困ってます。

町村：機械自体が悪いこともあるから、聞き取りにくいのは先生のせいばかりじゃないけどね。きちんと整備しておいてほしい。

梅沢：それと、先生が学生のことを、ちっとも気にしてないのがおもしろい。(笑)…なんか、一方的なんですよ。

洲崎：口で言うだけの授業も困るけど、黒板は、ちゃんと読める字で書いてほしいです。(笑)ぐちゃぐちゃだったり…。

中淵：小さすぎたり…。後ろの席だと見えないんです。小さい講義室にしてほしいと思います。冬なんか、膝掛けをしても寒いし…。

磯野：OHPとかスライドとか、端の方の席だと見づらいんですよ。あれも困るね。

小原：そんな授業の時は、早く行っていい席をとるんですけど、できないこともあるから…。

中淵：そうそう。工学部棟と共通棟を行き来しなくちゃならない時なんか…。ひどい日は1時間ごとに行ったり来たりして、5限まであるんですよ。(「ええええ!」「ウッソー」という声)信じられないでしょー。

洲崎：冬なんか、ほんと、たいへん。

キャンパスライフは…

司会：苦情ばかり出ましたが、授業内容という点では、どうだったでしょうか？

小原：授業の内容もなんですけど、思ったよりも

アバウトだなと思いました。休講の時なんか、ちゃんと掲示を出してほしい。

高木：時間はルーズだしね。それと、高校とは全く違う専門的なことをやるのかなと思ってたら、あんまり変わらないような気がする。

宮川：うん。専門科目だけにして、自由に選択できるようにしてもらえたら、と思いますね。

町村：出席を取らない授業は、出なくても何とかなると思ってたけど、試験の前は苦労しました。

磯野：試験は、暗記だけではだめなんだってこと。それも、強制されてじゃなく…。大学と高校の違いって、これじゃないかな。

坂下：うん。そうかも。自分でやる気にならないと、どうしようもない。でも、プリントを読むだけの授業では、やる気なんか起きない。

梅沢：また苦情になっちゃいましたね。(笑)…専門の授業で、これは高校ではなかったことだなあって感じたことがあります。あの緊張感の感動っていうか…。受験用の勉強とぜんぜん違う喜びっていうか。

石沢：ぼくなんかでも、ちらっと、そう思うことがある。(笑)…学問のおもしろさって、待ってるだけじゃダメかもしんない。

高木：ぼくらの側に熱意が必要ってことかなあと思う。…これって、サルの反省かも。(爆笑)

金井：先生たち、けっこう、いろいろ苦心してるなって思うことがある。時事問題を関連づけて話すとか…。でも、駄洒落なんかはね。涙ぐましいけど。(笑)

小原：少人数の授業が好きです。もっとコミュニケーションが持てると思います。

中谷：理論の説明よりも、例題演習を中心にやってほしい。理論だけじゃなくて、応用も大事だと思う。

中淵：授業では全部はできないと思うんですけど…。例題は、自分でやってみて、それから質問するという形にすれば、授業全体が深まるんじゃないかって思います。

永田：うーむ。正しいッ！(笑)

町村：ぼくが違うなと感じたのは、高校では、こうなるんだって記憶することが中心だったんですよ。ところが、大学では、どうしてそうなるのかって考えることが要求される。これがいちばん大きな違いだと感じました。

坂下：野外に出て実際のもを扱うとか、決まった答えのない問題で自分の主張を考えさせられるとかも、おもしろかった。

梅沢：授業のことじゃないんですけど、クーラーとか冷水機とか、夏の暑い時なんか、とってもほしかったんです。それから、廊下に危険そうな物をごちゃごちゃ置いてあったり…。安全面にも気を配ってほしいと思いました。

小原：ロッカーもほしい。食堂やトイレにまで、荷物を全部持ち歩くんですよー。

紫藤：アーケード、絶対ほしい。雨とか雪とか、教室移動の時、たいへんなんです。

高木：ちゃんとしたサークル棟。

永田：遊園地も。(笑)

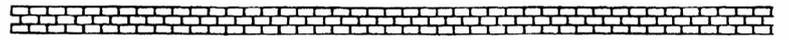
小原：学生会館を24時間開放してほしい。

洲崎：ちょっと違うんですけど、大学祭なんかは、サークルの人だけが楽しんでいるみたいで…。

小原：大学祭は、先輩や友だちと、みんなで一つのことをやり遂げたっていう喜びがありました。…私は、今の自分があるのはサークルのおかげだと思ってます。

中淵：分かるけど、もう少し地域の人たちと交流があってもいいんじゃないかしら。富大生の一部だけで盛り上がっているような気がして…。

宮川：飲食店大会って感じ。(笑)…教室を使った



展示とか催しとかがなく、つまんなかった。

磯野：けど、それなりに楽しめた感じも…。

新たな人間関係が…

司会：入学後の人間関係はどうでしょう。親元から離れての生活についても…。

永田：サークルによって違うと思うけど、ぼくの場合、先輩後輩の関係は、正直言って疲れます。社会に出てもつきまとうことは分かっているけど。

高木：ぼくは、大学祭なんかではメチャ忙しかったけど、部活の先輩とか友だちとか、深くつきあえる人がたくさんできました。

中淵：今住んでいる所は共同で、食事付きで、同じ部の女子と一緒になんです。いろんな出身地の友だちが増えて、心強く思ってます。

洲崎：一人暮らしだと、風邪を引いた時なんか、とても辛いんですね。でも、親には悪いけど、自由な生活には代えられません。

紫藤：親から離れての生活って、してみたいんですけど、残念ながら自宅生なんです。自由さが羨ましいですね。

坂下：夜中に騒げるのが、いい。(笑)

磯野：食べ物はかたよりますね、でも自分の責任だから…。外泊も平気だし、パソコンで徹夜しても、小言を言われなし…。

宮川：あらゆることが自分の意思で進めることができます。これは大きい。

石沢：食事の用意も洗濯も、たいへんなんだと分かりましたね。…親を見る目が変わったかな。

金井：バイト先なんですけど、他大学の人と友だちになったり、社会人の先輩におごってもらったり、学外の人とのつながりが広がりましたね。

未来の富山大学。高校生たちに…

司会：最後に、富山大学の将来について夢と希望を…。高校生たちに富山大学をアピールするとしたら、どんなことが挙げられるでしょうか。

中谷：これぞ富山大学っていうような、独自性を育ててゆけば、と思います。…今、何があるのか、よく知りませんが。(笑)

町村：寮とか学生会館とかサークル棟とかをきれいにして、学生を大事にしてるってことで評判になるというのはどうでしょうか。(笑)

梅沢：メインストリートのつきあたりに図書館がありますが、あの構図はステキだと思います。できれば図書館を大きくして、もっと蔵書を増やしてほしいんですけど。…でも、ヘルン文庫がある。これはすごいことだと思います。

磯野：最新の情報システムを備えた大学になるといいと思います。過去の卒論のうち優秀なものをコンピュータネットワークに載せるとか…。それと、パソコン関係のサークルがほしい。

小原：少人数教育と、他大学との交流を推し進めてほしいですね。国際的な交流も含めて…。

町村：富山大学は、繁華街にもそう遠くないし、海、山、川、蛍イカ、何でもあります。(笑)

高木：周辺環境のよさは抜群ですね。夏は海水浴、冬はスキー。アウトドアが手近でできる。

梅沢：それって、富山は田舎だってことですよ。(笑) 私自身、根がのんびりしているせいか、こういうムード、大好きです。

司会：ありがとうございました。では、今日はこの辺で。

私の研究室

確かめられたし、朝文。

岸田研究室

(人文学部)



朝鮮語朝鮮文学コース3年 若生正和

「……それでは皆さん、7枚目のプリントをみてください。その真ん中に黄鳥歌というのがありますね。それは三国史記に収められている歌なんですけど……」

F教官の熱のこもった講義が続く。場面は火曜日4限目の「朝鮮文学史」である。中身が濃く、熱意あふれるこのF教官の話に、自然と聞いている学生も身をのりださんばかりに……学生を責めてはいけない。昔からよく知られていることだが、ありがたいお話しにはそれを聴くものを深い眠りへと誘うという、神秘的の性質がある。F先生ほどの方の講義ともなれば、その催眠効果は絶大なものとなる。したがって、聴衆の半分以上が船を漕ぐのも当然のことと言えるのだ。

さて、講義が終わると学生たちがにわかに活気づく。さっきまでの気だる……いや、厳かな雰囲気は一気に消え去り、馬鹿ばなしに花が咲く。おや、F先生も一緒に談笑してるではないか。その眼は心なしか、講義中よりもいきいきしているようにもみえる。とそこに、K教官もやってきた。研究に疲れた頭を癒すため、世間話をしに来たのだろう。

K教官は日に何度も演習室に来るが、それを口

の悪い輩はお菓子をあさりに来るのだと揶揄する。しかし、そんな中傷を信じてはいけない。先生は学生との交流を非常に大切に思っており、そのために足しげく学生にあいに来るのだ。お菓子はただ偶然そこにあるから食べるのであって、それが一次的な目的ではない。

ふと演習室のはじの方を見ると、うずたかくつまれた辞書の中でテキストと格闘している学生がいる。次の講読の時間に自分の担当分がまわってくるのだろう。その周囲半径1mだけ異様な雰囲気だけがただよっている。眼には光りが宿っておらず、その動作にはすでに思考がともなっていない。辞書ひきロボットと化した彼女が人間に戻れるのは、どうやらだいが先のことのようにだ。

以上、ある日の朝文演習室の様子をざっとのぞいてみた。幾分かでも我々の生態を知っていただけただろうか。他にも様々な観察がなされているが、残念ながらここでは割愛せざるをえない。もしあなたがさらに我々について知りたいと思うなら、私は御自分の眼で確かめることをお勧めする。私たちはみなさんを大歓迎するだろう。

歌って踊れる先生に…

音楽科

(教育学部)



音楽科 3 年 生 一 同

こんにちは、教育学部音楽科です。私たちは、将来歌って踊れる音楽の先生を目指して、日夜練習に励んでいます。

その内容は、ピアノ、歌はもちろん、ヴァイオリン、リコーダー、トランペット、トロンボーン、打楽器と多種多彩です。先生方も十人十色で、高級車の紳士、声楽の新井先生を筆頭に、お菓子とお茶に通な、音楽教育の中村先生、車に詳しいダンディなピアノの辰巳先生、チェンバロと奥さんをこよなく愛する松本先生、鉄道に命をかけるピアノの石井先生、の5人の素晴らしい先生方に、私たちはいつも迷惑をかけっぱなしです。

音楽科は、音楽棟という独立した建物を所有していて、ピアノは40台以上あり、あちこちから熱心な練習の音が聞こえてきます。パソコンもあり、授業に導入されています。その他、楽器がたくさんあり、練習には困りません。各学年に1つずつ控室があり、学年の特徴を反映していて、綺麗に整頓されている部屋もあれば、足の踏み場もない

部屋もあります。私たち3年の控室は、片付いている方だと思います、多分。そんな私たちの、控室での唯一の楽しみは、15年前の白黒テレビです。お年寄りテレビだけあって、ワイドショーを見ても、話題になっているタレントの顔も、名前もわかりません。このままこのテレビのおかげでタイムリーな情報にうとくなる前に、早く新しいテレビがほしいです。

このような私たちですが、1年のうちで1番忙しくなるのが、12月から2月の終わりにかけてです。それは、なぜかというと、4年生の諸先輩方の日頃のレッスンの成果を披露する卒業演奏会があるからです。演奏会では、音楽に関するものであれば何をやってもよく、過去には音楽によってダンスをされた方もいたそうです。さて今年はどうなる演奏会になるのでしょうか。

これからも、私たち音楽科は、未来の有名音楽家を目指して頑張っていきます。

鈴木先生と鶏鳴狗盗たち

(経済学部)



夜間主コース4年 谷川賢司

現在、鈴木先生のもとには、3、4年各12人、夜間主9人の計33名のゼミ生がいる。この鈴木ゼミには、一芸に秀でた多彩な人間が集まっているため、ゼミ生というよりは、鈴木先生の食客という表現が相応しいかもしれない。ゼミには経理、税務の実務に長けた者、製造関係に詳しい者、流通に携わる者など、多種多彩な人間が集まっている。ゼミ生が食客という所以はここにあるのだ。鈴木ゼミは、財務会計を主にしているが、その取り扱う範囲は多岐に亘る。とりわけ、実例が重視されることも少なくない。そんな時、鈴木ゼミにおいて、我々全員は教わる側であると同時に、教える側ともなる。それゆえ、演習は常に百家争鳴の状態を呈しているのである。違う分野の人間が集い、ともに高め合うには、鈴木ゼミは、まさに理想的な環境なのである。さて、この食客の多彩さは、演習以外においても遺憾なく発揮される。鈴木ゼミは大所帯ゆえ、スポーツや文化的な催し(笑)を通し、学年や昼夜を越えた交流の場が常に持たれている。また、年1回、鈴木ゼミのOB会も行われ、縦の繋がりも大切にしている。こう

した課外活動で必要な人材にも鈴木ゼミでは、こと欠かないのである。

また、食客の才能は、ユーモアとも気遣いともとれる行動力にある。未確認情報ではあるが、鈴木先生が通常の講義をされる時には、技術系に強いゼミ生が不測の事態に備えて待機しているらしい。ワイヤレスマイクの電池が切れた時には、どこからともなく予備の電池が出てきたという噂もあるくらいである。(笑)

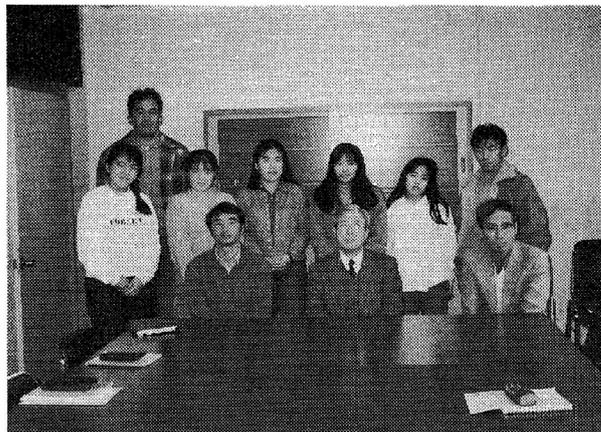
このように、鈴木ゼミには、多種多様な食客が揃っている。ただ、食客というのは、いわば、諸侯の下に、わらじを脱いでいる人達で、直接の家来ではない。それは我々にとっても同じである。我々は、鈴木ゼミに配属された、という理由からではなく、鈴木先生という親分の下が気に入ったから集まっているのだ。そしてそれは、先生が我々のような鶏鳴狗盗の輩を個々に認めてくれるからに他ならない。さらにさらに、そんな先生のために、我々食客が、お役にたてる(?)最大のことは何か、ひまを見つけては、思案中のところである。

この CH_4 が目に入らぬか

環境化学計測講座

水谷研究室

(理学部)



理学部生物圏環境科学科
4年 山本 恵

昨年4月、地球科学科の陸水学講座は、新しくできた生物圏環境科学科の環境化学計測講座に変わりました。私たちは、陸水を研究対象にして、環境の化学計測をしてきたので、新しい講座名も、もっともなネーミングではないでしょうか。

さて、地球的規模の環境問題には、地球温暖化、酸性雨などの問題がありますが、地球温暖化に大きな影響を与える温室効果ガスのうち CH_4 は、今後、 CO_2 よりも問題となると言われています。その CH_4 の地球上でのサイクルは、まだ、よく分かっていません。その解明の手がかりとするために、主要な発生源である湿地帯や水田の CH_4 の同位体比の測定を行っています。また、降水の化学成分や同位体比の測定によって、酸性雨の原因物質である硫酸などの起源の決定を目的とした研究も行っており、富山の冬季においては、中国大陸から運ばれてくる硫酸の影響を強く受けていることが分かっています。一方、環境水については、土壌中の CO_2 が地下水の pH に影響を与えていることから、土壌ガスの研究を行っています。土壌中の CO_2 濃度は、大気中の数十倍以上なので、その影響はとて大きく、さらに地下水中の化学反応への影響も無視できないからです。その

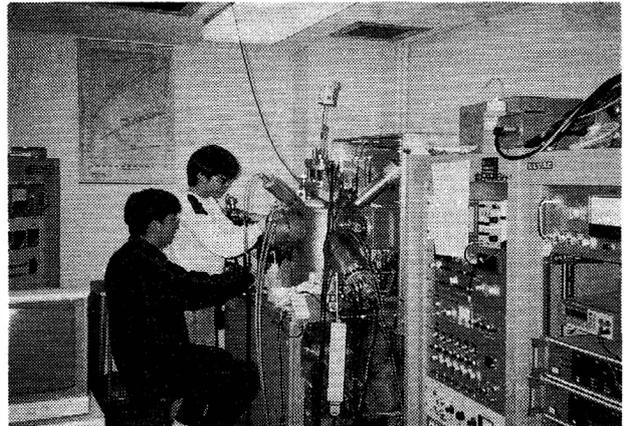
ほか、地下深部の情報を得るために、温泉ガスの分析やその中の CH_4 の同位体比の測定を行い、ガス起源を研究しています。

私たちの研究室のメンバーは、3人の先生と学生は4年生ばかり7人で、理学部の研究室にしては珍しく(?)、女性優勢で7人のうち5人までが女子学生です。先生方は、とても仲がよろしくて、毎日、3人揃って生協へお昼にいかれませう。その姿からか、昔からひそかに(?)“水戸黄門”と言われてきました。黄門様こと水谷先生は、学生ひとりひとりを見守ってしてくれる温かい先生です。よく、ご老公様のようにハッハッと大笑いされるのですが、その笑顔に引き込まれて、私たちが笑うことになって、和やかな雰囲気してくれます。角さんこと佐竹先生は、もと“落研”とか。普段は無表情なのに、話すと、サラッと面白いことを言います。“新”助さんこと清棲先生は、富山大に来て1年目です。話すことがお好きなようで、廊下でよく誰かと立ち話をしています。でも、とても面倒みのよい先生です。こんな3人の先生のもとで、私たち7人は、今、卒論研究の追い込みに入っています。

ウェーハとおでん

物性デバイス I 講座

(工学部)



工学研究科

電子情報工学専攻1年 西脇 博

物性デバイス I 講座は工学部の電気棟の4階のいちばん奥に位置している。ここからは立山連峰が一望でき、また8月の神通川の花火大会では絶好のポジションになる。――

この講座には龍山先生、上羽先生、丹保先生の三人の先生がいらっしゃいます。この三人の先生の下で日々研究にはげんでいる学生は、D1が1人、M2が5人、M1が7人、そして4年が11人と工学部内でもかなりの大所帯であります。院生がとても多いことが特徴でしょう。では実際どのような研究をしているのか簡単に紹介していきましょう。

まず大まかに言うと、今日の産業を支えている「半導体」に関する研究をおこなっています。よくテレビなどでSi（シリコン）の鏡のような円盤（ウェーハ）を見たことがあると思いますが、このような半導体の板の上に薄い薄い（ナノスケールの）半導体、あるいは超伝導体の膜を作って、その性質を調べています。ちょっと聞くと簡単そうな実験に聞こえますが実際には苦労苦労の連続です。朝早くから夜遅くまで（徹夜も含む）毎日

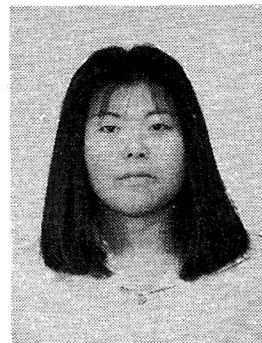
実験を繰り返すのです。とにかく時間がかかるのです。ちなみにこの講座には長期休みという概念はなく、日夜研究に勤しんでいます。その代わりといっはなんですが、やりがいはどこよりもあると実感しています。研究者としての第一歩を踏み出すにはこんなによい環境は、そうないと思います。

ちょっと厳しい面ばかり紹介しましたが、当然息抜きもしています。この講座は行事が多いのです。4月の新歓（焼きそば）コンパ、11月のおでんコンパがあり、ここでの焼きそばとおでんはM1が作るのです。おでんに至っては前日から煮込み、電気棟全体におでんの香りを振りまきます。そのほか忘年会、追コンと目白押し。先生を交えての楽しいひとときをすごします。また8月には講座旅行があり、今年は宇奈月温泉、黒部峡谷の1泊旅行をして、いっそうの親睦を深めました。

以上のように我々の講座は忙しい毎日をおくっています。地道な研究ではありますが、明日の日本の産業の基礎を作る研究者になるべく（?）、今日も実験、研究に明け暮れているのであります。

留学生コーナー

ドイツでの留学生活を通して



教育学部 上原 康代

私は1993年9月から1994年7月までの11ヵ月間、富山大学の教育学部の学生としてドイツでの留学生生活を体験するという大変貴重な機会を与えて頂きました。留学先はルードヴィヒスブルク教育大学でした。この大学のあるルードヴィヒスブルクという町は、バーデン・ヴュルテンベルク州の州都、シュトゥットガルトー深い森に抱かれた静かな文化都市ーから北へ約15kmのところに位置しています。

ルードヴィヒスブルク教育大学は、町の中心地から徒歩で約20分のところに建っていました。ドイツの大学はほとんどが国立大学で、授業料は全く納める必要がありません。従って学びたいという意欲を持つ者すべてに対して学ぶ機会が与えられています。このことからドイツの学生は勉学に対してとても熱心であり、私は自分自身の勉学に対する姿勢を顧みて反省し、自分は何故、そしてどのような目的をもって学んでいるのかを改めて認識することができました。

またドイツの学生は、一学生だけでなくドイツ人は皆ー日本人に比べて自由な時間を多くもち、その時間を自分自身の教養を高めるために、或い

は自分の趣味を楽しむために充実して過ごしていると感じました。

バーデン・ヴュルテンベルク州の位置するドイツの南西部はシュヴァーベン地方と呼ばれ、この地方ではシュベービッシュという方言が話されています。そのこともあって留学した当初はなかなか言葉も理解できず困難な思いもしましたが、多くの友達が支えてくれたおかげで楽しい留学生活を送ることができました。母国語以外の外国語を知ることによっていろいろな国の人たちと友達になることができ、いままで知らなかったそれらの国の文化・習慣・考え方を知り正しく理解することに役立ったと思います。それと同時に私は今まで気付かなかった自国の長所・短所を明確に認識することができたと思います。そして他国の言葉をマスターすることは、もうひとつの世界をもつことができると思いました。

今の世の中は、国際化の方向へ大きく変化してきています。ドイツで経験・体験してきたことを十分に生かし国際的な考え方をもち幅広い識見をもった教師を目指していきたいと思えます。

トピックス

学部長との談話会－富山大学大学院博士課程設置記念－



出席者 工学部長 時澤 貢教授
工学部1年生 高縁 香里
谷口 智子
村中 勇太
宮崎 正

今日は、今年からスタートした大学院博士課程について、幾つかの質問に学部長の先生から直接お答えいただけるとのことで、楽しみにしておりました。暫くの間、よろしく御願いたします。

Q① ドクターコースを作るのに何年くらいかかりましたか。

A：約5年です。

工学部は永年の懸案であった五福統合移転を昭和60年（1985年）夏に完了しました。その後、平成元年から2年間で旧7学科から4大学科への改組が行われ、旧来の組織の再構築がおこなわれ、新任の教官も含めて新しい研究分野に挑戦しております。さらに、平成5年から教養教育の大改革に伴い、それまで教養教育に専念されていた教官も多数工学部に移行され、これを機に修士課程や学部生の卒業研究にはますます活気が出てきました。このような流れの中で、博士課程が平成6年度からスタートしたわけです。

Q② なぜドクターコースを富山大学に作りましたか。

A：富山県は、日本海側有数の産業・技術立県と

して、産業構造も幅広くバランスの取れた業種からなる企業が多数あり、特に最近ハイテク産業地域として先端企業が着々と集結しているのです。本学は、その様な地域産業の発展に向けて高度技術を身に付け、新たな分野に挑戦できる人材の養成を使命としています。さらに、社会人再教育、地域の学術情報拠点および共同研究への支援等を通じて高度技術者、研究者の輩出を期待される地域社会と時代の強い要請があります。このような背景のもとに教育研究、地域社会との連携、国際化等の面にわたる改革を推進し、さらに、大学教官の研究と教育活動の活性化により、魅力ある大学づくりを目的として博士課程の設置を申請していたわけです。

Q③ ドクターコースの新設によって、富山大学のカリキュラムはどのように変わりましたか。

A：先程もいいましたように、博士課程の設置は平成元年から始まった学部改組の線上にあるわけですし、この間に、大学改革による大綱化の方向で、カリキュラムも大幅に改定されました。皆さんがお持ちの工学部「履修のしおり」も新たになり、大学科、大講座制への

変化に伴って授業科目や内容が見直されました。平成9年度には、高等学校における大幅なカリキュラム改定後初めての学生を迎えますので、これに沿うような学部再改革を進めようとしているところです。

Q④ 現在の富山大学大学院の設備について、とくに設備が進んでいるもの、あるいは、これから導入を計画している設備を教えてください。

A：ご存じのように、学部は電子情報工学、機械システム工学、物理工学、化学生物工学の計4学科から成っており、博士前期課程もこれに沿った4専攻に改められました。ただ、博士後期課程はこれを融合した2つの専攻、すなわちシステム生産工学と物理生産工学から成っています。前者はさらに、電気情報システム工学講座と生産工学講座、後者は材料応用工学講座と生体物質応用化学講座で構成されており、これらの講座の研究分野に関連する設備、例えばコンピュータ応用、材料応用、材料加工、材料物性などの分析研究に威力を発揮する機械の充実や博士研究棟の建設に努力しているところです。

Q⑤ 一つの研究分野を週何時間で、どのくらいの期間研究するのですか。

A：3年間です。詳細は博士課程のカリキュラムを参照していただくとして、概要を述べますと、修了に必要な単位数は特別研究と講義合わせて6単位のほか、特別実習、特別演習を必修としています。これらを3年間で修得することになっています。なお、毎週2時間、15週の受講で2単位になります。また、社会人学生に対して、上記の実習や演習は企業における業績等で報告書の提出等によって一般学

生と異なる認定扱いがなされます。

Q⑥ ドクターコースで学ぶことにより、取得できる資格を教えてください。

A：博士（工学）の資格です。

Q⑦ どの分野の研究をするのか、各個人の希望通り選べますか。例えば、定員制を取るなどで、第2希望になることもありますか。

A：一応、募集定員は各専攻当たり6名で計12名となっております。しかし、受け入れ可能な人員はそれ以上で、社会の要請に応じて柔軟に対処しております。このような枠の中で希望の分野における教官の了解の上で入学資格さえ得られれば、希望の分野を選べるようになりますね。

まだいろいろとお聴きしたいことがありますが、午後から講義がありますので、次の機会にうかがうことにいたします。今日はお忙しい中、このような対談の時間を割いていただきまして有り難うございました。

対談日時 平成6年12月20日 12:00～13:00

対談場所 工学部 学部長室

お知らせ

理学部の川田邦夫先生が第37次南極地域観測隊副隊長兼越冬副隊長に選任されました。（平成7年11月から平成9年3月までの予定で、期間は約1年半）

学園ニュースでは、この関連記事を掲載したいと思っています。

学生部だより

就職活動準備等に備えて

三年生の皆さん 来春は最終学年を向かえいよいよ自身の進路を決定する学年です。

皆さんの先輩から、今年就職活動等の現状をお聞きのことと思いますが、バブル経済崩壊後の一昨年から今年と学生の就職環境は「氷河期」「どしゃ降り」等と形容されるとおり、非常に厳しい状況です（求人倍率：平成5年度男1.81、女0.87、平成6年度男1.43、女0.61）。この経済動向は明年度においても大きく好転するとは考えられないとも伝えられています。

これらの状況の下で来春就職活動を行う学生の皆さん、厳しい実社会との接触の第一歩を踏み出すに当たり、大きな不安を抱いておられることと思います。

大学生の企業等への就職は自由応募が主流です。自分だけが頼りです。まず「自分は何をしたいのか」「何ができるのか」を真剣に考えて、自分に合った業種・職種を具体化し、できるだけ早く取りかかり、納得のゆく就職活動を行ってください。

就職準備・活動スケジュール（例示）

第一（3年次10月～12月）

自己の大学生生活の充実を図るとともに、経済や産業の実態を理解し、将来の職業感や人生感などに対し考え方をまとめる。

先輩の就職活動等の状況を聞き、自己の就職活動準備の参考にします。

第二（3年次1月～3月）

自己の適性や能力などを理解し、種々の資格等を取得するなど達成度を高める。

※ 「就職協定」等が発表される。

※ 平成7年1月25日（水）午後「公務員採用試験に関する講演会」を開催（学内）

※ 「進路希望調査書」等の提出（各学部学務・学生係へ）

※ 各種就職ガイドブック等の送付のための申し込みカードの配設等がされる必要に応じて各自で申し込みを行う。（日経新聞、リクルートなど）

第三（4年次4月）（以下「平成6年度就職協定」等に基づいた場合）

- i できるだけ早く多くの情報を集め、自分の希望を決める。
学部の就職資料室から、企業の就職情報や先輩の就職活動の状況等を収集
 - ii 希望の業界・業種や職種と企業を具体化し企業研究を行う。
“これ”と思った企業に資料を請求し、企業規模、事業内容、経営状況、社風や採用計画・試験内容などを収集
 - iii 採用試験等への対応を行う。
“面接”などへの対策、挨拶、礼などのマナー、受け答え、小論文、一般教養などの学習、リクルートスーツの準備など。
- ※ 平成7年4月中旬「就職に関する講演会」を開催予定 就職活動に必要な一般的な心構えなどを身に付ける。（学内）
- ※ 各学部で就職ガイダンスが開催される。
- ※ 学内の健康診断が実施される。受診しなかった学生は、病院等で受診し健康診断書の発行を受けなければなりません、多額の出費を要します。
- ※ 業界・企業説明などと称して企業合同などの説明会が開催される。
面接の事前調査の対象とされることがあり、マナーなどに留意。

第四（4年次5月～6月）

- 企業研究等を継続（知名度・規模等にとらわれないで業績と将来性等について幅広く20社程度）
- ※ 求人票が企業から大学へ送付されてくる。

第五（4年次7月～8月）

採用選考には、面接を重視する企業が多い。規模面接等を通して自己PR、志望動機と採用された場合の目標（入社後はどんな仕事を希望し、どのような対応力を自分

が持っているか）等を簡潔明瞭に伝える。

あらかじめ志望順位を明確にし、日程調整を行い、選考内容等を十分に確認のうえ準備万端・体調を整え希望企業へ積極的にアタック！

他の学生も必死です。フライングはいけません、“出遅れ”ではダメです。

- ※ 求人票を公示、学校推薦開始、会社訪問、採用選考開始

第六（4年次9月～10月）

企業から内々定、内定ができる。

- ※ 「内定受諾書」「入社誓約書」などにより入社意志確認が行われる。

第1希望であれば速やかに回答と関係各位にお礼の挨拶を行う。

第2希望以降であれば指導教授等の相談を基に「希望度」と「他の内定可能性」の検討を行い回答は慎重に、また、重複内定による辞退企業には速やかに誠意をもった対応を行う。

公務員&教員を目指す方へ

- i 国および各自治体の選考試験等の情報入手
学部就職資料室等から、採用試験の種類、職種及び出願時期などの収集を行う。
- ii 試験対策
試験の範囲が広範囲であることから、自分で問題集を購入し、地道に勉強に取り組むと共に生協等が行う各種模擬試験等により傾向と対策を研究
- iii 近年の著しい経済環境の変動等により、公務員等の志望者が増加しています。
公務員等を第1志望とされる方も、万一に備えて前掲の第一から第六による準備体制を併せて行い、悔いのない就職活動に取り組んでください。

..... 学生部厚生課から

平成6年度 前期授業料免除について

平成6年度前期授業料免除者の選考が、5月16日に開催された授業料等減免選考委員会で行われ、次のとおり決定しました。

なお、授業料免除及び奨学金を希望するうえで、たずねたいことがあれば、厚生課又は各学部の学務係（経済学部は学生係）へ相談してください。

区 分	出 願 者	免 除 許 可 者	不 許 可 者
学 部	390 人	359 (52) 人	31 人
大 学 院	77	73 (11)	4
計	467	432 (63)	35

()内は、半額免除許可者で内数

アルバイトの紹介

学生部入口の掲示板に求人票が掲示されていますので、希望するアルバイトがあれば、厚生課まで申し出て下さい。

○一般業種

希望する求人票の掲示番号を窓口申し出て、申込書に所定の事項を記入することにより斡旋を受けます。

斡旋を受けた後は、速やかに求人先へ電話連絡等を行い、指示を受けて就労してください。

○家庭教師

窓口での求職の方法は一般業種と同じですが、毎週火曜日と金曜日に抽選を行い、紹介者を決定

しています。

なお、就労にあたっては、次の点に注意して下さい。

- ① 都合により就労できないときは、求人先へ連絡すると共に、厚生課で申込み取消手続きを行って下さい。
- ② 求人先でトラブルが生じたときは、自分だけで処理せず、まず求人先の責任者とよく相談の上、適切に対処すると共に、必ず、厚生課へ連絡して下さい。
- ③ 就労にあたっては、学生としての自覚をもってあたり、社会から信頼を受けるよう真剣に取り組んで下さい。

職種別アルバイトの斡旋状況及び賃金

平成5年4月～平成6年3月

項目 職種	求人件数	求人者数	紹介者数	具 体 例	賃 金 (円)
家庭教師	85	85	80	家庭教師	時給 小学生の場合 1,600 中学生の場合 1,750 高校生の場合 1,900
学習塾講師	46	316	243	塾の講師	時給 1,000～3,000
事 務	45	272	178	一般事務、宛名書き、校正、電話の対応、文献整理	日給 4,800～9,600
調 査	37	554	390	交通量調査、世論調査、客層調査、地温調査	日給 4,400～11,565
重 労 働	219	1,642	1,287	搬入、搬出、配達、清掃、引越し、洗車、荷造	日給 4,800～24,000
軽労働・軽作業	128	1,016	711	文書の封入、軽度の包装、箱詰、検品、測量、駐車場整理、歯科助手、電子部品組立	日給 4,800～24,000
特殊技能	8	32	28	コンピュータのオペレーター、デモ演奏、翻訳、パソコン入力	日給 5,000～18,000
販売店員	168	989	600	マネキン、レジ、ガソリンの給油	日給 4,800～18,666
そ の 他	206	2,585	1,876	受付、デッサンモデル、イベントの手伝い、みこしひき、プールの監視補助	日給 4,000～24,000
合 計	942	7,491	5,393		

月別求人件数・求人者数・紹介者数



項目	月	5. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	6. 1	2	3
一 求人件数		102	84	110	90	47	62	98	87	71	66	64	61
一 求人者数		672	664	1,246	614	424	464	889	854	332	734	313	285
… 紹介者数		492	479	878	438	354	295	583	741	234	442	249	208

交通安全の徹底について

《交通安全7つの遵守事項》

教育研究にふさわしい快適な学園環境を保持するため、お互いに交通ルールを守りましょう。！！

- ① 入構しようとする自動車は、各門において必ず一旦停止し、入構許可証の確認を受け入構願います。
- ② 構内を通行する車両の速度は、20キロメートル以下とし、交通安全及び騒音防止に努める様願います。
- ③ 入構を許可された自動車は、**駐車場に駐車**願います。
ただし、駐車場が満車の時は駐車可能区域に駐車することができます。
- ④ 入構許可証は、駐車する際には、**運転席前面の位置**で外部から識別できるように表示下さい。
- ⑤ 駐停車禁止区域は、**絶対に駐停車**しないで下さい。
特に生協前から第3体育館前にかけては通行の妨げとなり、ひいては交通事故につながる恐れもあります。
- ⑥ 自動二輪車及び原動機付自転車は、入構地点から最寄りの**専用駐車場**に駐車願います。
構内は通行できません。
- ⑦ 自動二輪車及び原動機付自転車の運転にあたっては、**必ずヘルメット**を着用願います。

構内交通対策委員会委員長

(工学部教授) 竹越栄俊

迷惑駐車の自粛について

最近、本学周辺の道路等に本学学生のものと思われる自動車が多数駐車されておりこれが通行の支障になり交通事故にもつながる恐れがあります。

このことについては、付近住民等からも本学に対し、再三苦情が申し入れられています。

諸君には、この状況を理解され、自動車通学を慎む等、本学学生として良識ある対応を強く望みます。

富山大学学生部長 浜谷正人

保健管理センターだより

健康診断を受けましたか？

— 時はアンコールに伝えてくれない（セネカ） —

保健管理センター運営委員会委員
教育学部 教授 横山 泰行

幸田露伴は第一回目の文化勲章の受章者であり、80年間の生涯において積極的に身体運動をしなかった文豪であると言われている。露伴は雀の消化と鷹の消化を紹介している。雀はちょっぴりと食事した後で、コチョコチョと動き回りながら、食べたものを小さな体の中で消化する。鷹は肉をたっぷり食べて、じっとしたまま、あたりを悠然と睥睨しながら、体の中でじっくりと消化する。若いころ、露伴は鷹であると豪語していた。それから何年かして、身体の衰えを下半身に感ずるようになった。あの頑健で健康に恵まれた露伴も足が十分に動かなくなって、やっと、やっぱり雀のことも考えるべきだったと述懐している。

表1は平成5年度の各学部学生の健康診断受検率を表にしたものである。富山大学の定期健康診断は一般検診、X線撮影、尿検査、血圧検査の4項目で構成されている。なお、一般検診・尿検査・血圧検査は同じ受検率の傾向にあったため、まとめて分析した。

学生の定期健康診断の期日や検査項目は学校保健法施行規則第3・4条に規定され、毎年行うものとされている。入学後間もない1年次の健康診断の受検率はX線撮影を除き、全学部とも90%以上の高い数値である。X線撮影の低い受検率は高校時代の受検状況を反映しているものと推測できる。なぜならば、最近の高校生のX線撮影は1年生ではほぼ全員を対象に実施されているが、2・3年生では必要時または必要者のみに実施されているからである。大学の2・3年生の一般検診な

どの受検率は極端に低く、人文・経済・工学部では10%以下であり、一番高い受検率である教育学部においても、50%強といった状況である。4年生の受検率は就職の関係上、低い人文学部でも64%、高い理学部に至っては96%にも達している。さらに、X線撮影もほかの検査同様に高い受検率を示している。

一般検診（心臓疾患、その他の疾病異常）、X線撮影（直接撮影）、尿検査（蛋白有）、血圧検査（最高血圧140以上、最高血圧100以下、最低血圧90以上の者）の有所見者数の受検者数に対する比率は表2の通りである。血圧検査の結果が10%を越える最も高い数値であり、尿検査の結果がそれに続いている。尿検査以外では、学年が上がるにつれて有所見者数の比率が高くなる傾向にある。

平成4年の国民生活基礎調査によれば、人生において健康に最も恵まれた世代である15-24歳までの通院者率（調査日に通院した者、人口千対）は男性では90.9、女性では134.7である。こうした必ずしも低くない有所見者率や通院者率から判断して、上記の特に低い2・3年生の健康診断の受検率には大いに問題があるといえる。

健康は、すべての人間にとって価値あるものであり、願わしい望みである。そのために、日々の生活において自己の健康をチェックしたり、保持増進に努めることが肝心である。英国の格言、「Wealth is something, health is everything.」やセネカの「時はアンコールに伝えてくれない」といった警句の熟読玩味を！

表1 定期健康診断の受検率（％）

項 目		一 般 検 診 検 尿 ・ 血 圧	X 線 撮 影
人 文	1 年 生	9 5	3 6
	2 ・ 3	6	3
	4	6 4	6 4
教 育	1 年 生	9 7	7 2
	2 ・ 3	5 4	3 8
	4	9 0	8 5
経 済	1 年 生	9 3	1 4
	2 ・ 3	7	5
	4	7 0	6 4
理 学	1 年 生	9 3	3 2
	2 ・ 3	1 6	1 2
	4	9 6	9 1
工 学	1 年 生	9 4	3 5
	2 ・ 3	7	5
	4	8 0	7 4

富山大学保健管理センターの集計結果より引用

表2 検査項目における有所見者の比率（％）

項 目	1 ・ 2 年 生	3 ・ 4 年 生
一 般 検 診	1.3	2.0
X 線 撮 影	0.6	0.9
尿 検 査	4.6	3.8
血 圧 検 査	12.5	14.3

富山大学保健管理センターの集計結果より引用



キャンパスウォッチング

富山大学立山施設

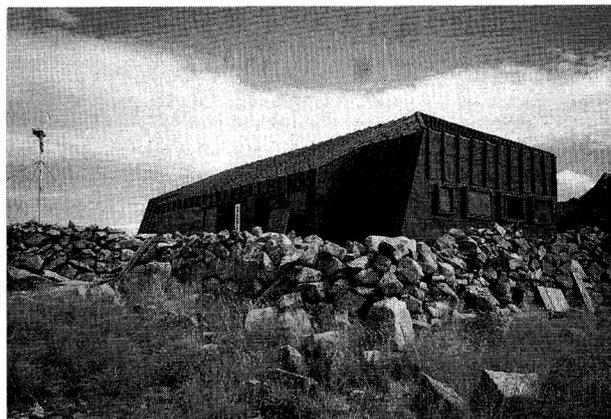
富山大学立山施設は、昭和18年10月に運輸省の気象観測所として立山連峰の浄土山頂（標高2,840m）に建設され、昭和26年10月に富山大学に移管されたものであり、平成6年9月に内外装等の改修工事が施行され装いを新たにしました。この立山施設は、標高2,840mの浄土山頂にあり、日本海に面して聳える北アルプス立山連峰の中央に位置するため当施設は、本学においては学生の野外教育の活動拠点及び立山山岳地帯における自然科学的研究を行う場所（立山・薬師岳付近は、日本列島における隆起運動の中心であり浄土山頂が最も適し、本学の理学部地球進化学教室の学術的研究目的等のため）として全学的な学生課外活動・教育研究共用施設としての性格を有してきている。

また、これまでに本学では、野外活動施設として多くの学生及び教職員が利用し、それぞれの成果を上げてきている。特にワンダーフォーゲル部を中心に他の部においても夏・冬における登山技術修得のため研修場所として使用している。

なお、当施設に設置されている衛星電波受信アンテナ測定施設により地殻歪観測基準としての人工衛星による精密測位システム（GPS）観測のための基地として使用している。詳細は、学生課学生係まで。

利用状況

- 課外活動におけるワンダーフォーゲル部を中心に数部が毎年の春・夏山時期を活動の場とし登山技術修得（夏山・岩場合宿訓練及び雪上技術訓練）のために利用している。
- 本学の生物・地学系の教官及び学生が夏山シーズンを中心に山岳気象、立山地形、地質、動植物等の生態を観察・調査する拠点として利用している。
- その他の一般学生・教職員及び一般登山者の登山における中継基地並びに学生の課外教育上の交流、親善を図る施設として利用している。また、登山者が急変した気象や体調の悪化等があった場合の救急避難場所に利用している。



▽▲▽▲▽ 学園ニュース編集委員 ▽▲▽▲▽

学生部長	浜谷正人
人文学部	中村雅之
〃	高安和子
教育学部	竹浪聰（顧問）
〃	遠藤幸一（顧問）

経済学部	駒城鎮一
〃	白石俊輔
理学部	川崎一朗
〃	小松美英子
工学部	女川博義
〃	杉本益規